

研究部通信



第 3 号

平成30年

8月 3日

今年度の高等部研究について

テーマ：卒業後に必要となる力を意識した、主体的・対話的・深い学びを目指した授業づくり

【研究仮説】

生徒の現在及び将来の社会生活・職業生活をイメージし、そのために必要と思われる力を意識した授業づくりを行う。授業づくりにおいては、生徒の「**主体的・対話的で深い学び**」を引き出すことによって、身に付けた資質・能力が社会生活や職業生活に活かされるのではないかと。

高等部では「授業づくりの7つの視点」を軸に授業づくりを進めてきました。今年度は「④教材」、「⑤展開の工夫」、「⑥主体性や協調性を引き出す」を中心とし、授業づくりの充実を図ります。

5月に各作業班で「主体的・対話的・深い学び」の具体的なイメージを話し合いました。「まず十分に経験を積むところからスタート」「先輩から後輩へ」「自分の仕事を他者に伝える、教える」「目標をもって」「改善する気持ち」等、たくさんの意見が出ました。



今年度の研究授業とグループ編成

昨年度研究から 課題（もっと深めたいこと）

対話の中から、**気づき**を促すこと

単一障がい学級（シー・リバー）は「作業学習」で実施

・農業班 ・窯業班 ・総合サービス班 ・織物班 ・木工班

今年度から新たに「**外販活動**」が始まりました。「**はくとよろずや**」と銘打って地域に出かけていきます。

重複障がい学級（スカイ・レインボー）は「生活単元学習」で実施

高等部らしく、卒業後の生活ステージをイメージしながら「一緒に、できる、楽しい、やってみたい!」を意識した授業づくりを目指します。



4月の授業風景（木工班）

何を作りたいか、どんな製品なら売れるのか、「製品の難易度表」を見ながら自分の考えを話し合っています。